POSSIBLE

２０２２ 年度

環境経営活動レポート

２０２２年５月～２０２３年４月

株式会社ポシブル

2023.7.21 発行

目次

1.　組織の概要

2.　対象範囲

3.　環境方針

4.　環境目標

5.　環境実績

6.　環境活動の内容と取組結果およびその評価、次年度の取組

7.　各営業所の環境負荷および取組の状況

8.　環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

9.　代表者による全体の評価と見直し

10.　環境活動の状況

1. 組織の概要

◇ 会社概要

本社・テクニカルセンターMap

・会社名　株式会社ポシブル

・代表者　代表取締役　落合 秀人

・設　立　平成8年 5月

・従業員数　69名

・資本金　1,000万円

・事業内容　光学測定器・光学検査機器・光学部品販売及び開発
半導体製造装置消耗部品 販売
装置部品輸入販売・装置部品輸出
真空装置・真空部品販売・露光装置用水銀ランプ販売
中古装置輸入販売・各種装置老朽化対策
各種装置修理保守改造・設計・開発

本社

テクニカルセンター

◇ 所在地

・本社　宮崎県宮崎市大塚町横立1453-6
・テクニカルセンター　宮崎県宮崎市大塚町横立1379-1
・鹿児島営業所　鹿児島県霧島市国分新町993-13
・長崎営業所　長崎県西彼杵郡長与町高田郷3608-8
・熊本営業所　熊本県菊池郡菊陽町久保田字下原2818番10
・大分営業所　大分県大分市高城本町1番20号 GRC opus takajyo102B
・広島営業所　広島県東広島市鏡山3丁目13番26号 広島テクノプラザ305号室
・横浜営業所　神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-9 新横浜フジカビル602
・東京営業所　東京都北区赤羽2丁目45-8 ファーストビル赤羽602
・福島営業所　福島県郡山市八山田5丁目175番

◇ 連絡先

TEL:0985-30-4811　FAX:0985-47-1408
info@possible.co.jp

環境管理責任者　井本 康仁

環境管理事務局　芋瀬 裕香

◇ 事業の規模

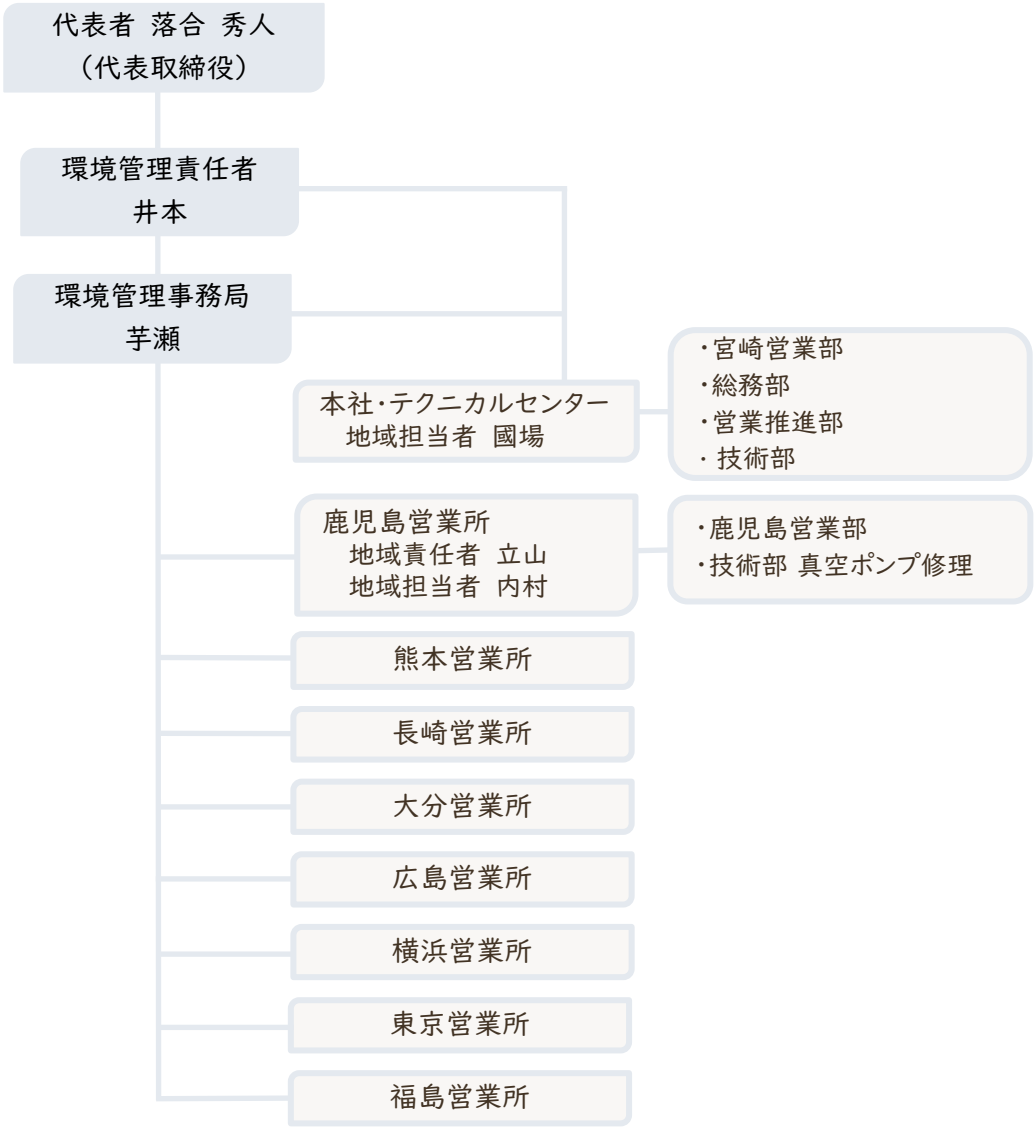
売上額　40.7 億円（2022年度）

熊本営業所

◇ 事業年度　5月1日～4月30日

2.対象範囲

◇実施体制



◇ 認証・登録の範囲

登 録 事 業 所： 株式会社ポシブル
対 象 事 業 所： 全組織
活　　動： 事業内容に関わる全活動

3.環境経営方針

環境経営理念

株式会社ポシブルは、半導体、電子部品産業の先端設備及び老朽化設備への技術対応を目指し、有意義で価値あるソリューションを提案し続けます。お客様へのコストダウンに貢献できるような販売活動を行う中で更に市場を拡大させ、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境に配慮した事業活動を継続的、自主的、積極的に取り組みます。

環境経営行動指針

1　当社は事業活動における環境への影響を考え、環境負荷の低減に取り組みます

2　電力・自動車燃料の消費にともなう二酸化炭素排出量の削減に取り組みます

3　廃棄物排出量の削減およびリサイクルできるものは分別します

4　節水に取り組みます

5　社内で必要なものは環境に配慮した物品の購入を推進します

6　環境関連法規を遵守します

7　事業活動の中で、製品への環境配慮として環境配慮型製品の販売を促進するとともに、老朽化装置の延命対策となる修理・部品供給のサポートを推進します

8　地域社会への貢献を行います

制定日　:平成27年4月28日
改定日　:令和 2年7月 7日

株式会社ポシブル
代表取締役　落合　秀人

4.環境目標　（全体）

項目	年度別環境目標				
	単位	基準値	2022年度	2023年度	2024年度
電力の二酸化炭素排出量削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg-CO2)	72,696.0	72,623.3	72,550.6	72,477.9
自動車燃料・LPGの二酸化炭素排出量削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg-CO2)	78,305.1	78,226.8	78,148.5	78,070.2
一般廃棄物の削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg)	1,189.3	1,188.1	1,186.9	1,185.7
産業廃棄物の削減	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(kg)	15,828.1	15,812.3	15,796.4	15,780.6
節水	削減率(%)	-	0.1	0.2	0.3
	(㎥)	438	437.6	437.1	436.7
製品への環境配慮	向上率(%)	-	1.0	2.0	3.0
	(万円)	7,927.0	8,006.3	8,085.6	8,164.9

2021年度を基準としています。
二酸化炭素排出係数は0.480 t-CO2／kWhです。（九州電力）
横浜営業所および大分営業所は他テナントと水道を統一管理されていて個別の水道使用の計測が不可能な為、対象外となっています。
化学物質（PRTR制度対象物質）の使用、購入、保管、移動ともありません。

5.環境実績　（全体）

方針	項目	単位	目標値	実績	達成率	判定
			2022年度		%	
二酸化炭素排出量の削減	電力の二酸化炭素排出量削減	(kg-CO2)	72,623.3	72,649.9	100.0	○
	自動車燃料・LPGの二酸化炭素排出量削減	(kg-CO2)	78,226.8	81240.0	96.3	×
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	(Kg)	1,188.1	1,386.1	85.7	×
	産業廃棄物の削減	(Kg)	15,812.3	24,216.3	65.3	×
節水	節水	(㎥)	437.6	424.0	103.2	○
製品への環境配慮	老朽化対策対象品の販売促進 環境配慮型製品の販売促進	(万円)	8,006.3	9995.2	124.8	○

2021年度を基準としています。二酸化炭素排出係数は0.480t-CO2／kWhです。（九州電力）

6.環境活動の内容と取組結果および評価 、次年度の取組

◆ 本社・テクニカルセンター

目標	取組活動	担当	取組結果	今後の取組
電力の二酸化炭素排出量の削減	商品管理以外の使用していない空調の停止 事務所空調温度の適正化 照明の不要時消灯 太陽光パネルの設置	全員	本社では、今年は猛暑で空調使用が多かったのですが、設定温度を高めに設定すると共に 扇風機台数を増やし各自で服装も工夫して空調温度を調整しました。使用しない場所の消灯はもちろん、これまで同様、残業をする場合も間引き照明をしました。昨年2月末に本社屋上に設置した太陽光パネルは、本社の電気使用量を月平均で67.7%減らしました。太陽光発電による自家消費率は月平均21.3%でした。自家発電によりCO2排出量を抑える事ができましたがテクニカルセンターでサービス向上に不可欠な精密機器が増えていて、間取りの関係でそれらが点在しており、品質保持の為に空調と除湿機をずっと稼働させている状況が続いています。その為なかなか削減が難しく、テクニカルセンターにおける動力使用が昨年に対し逆に7割増えている現状で、今後も引き続き皆で省エネを意識した取組を続け、数値目標達成に向けて努めます。	引き続き、取組活動を継続します。
自動車燃料・LPGの二酸化炭素削減	エコドライブの徹底 可能な限り乗り合わせて行動 不要な荷物をおろす 夏場の給湯利用は最低限(LPG)	営業・技術	コロナが落着いて行動制限が解除され、営業活動や技術的な活動も活性化した為 出張も増えました。それに伴ってガソリンの使用量も増えましたが、エコドライブを意識し燃費は向上させる事ができました。	今後も引き続き活動を行います。
一般廃棄物の削減	裏紙の利用 廃棄物分別の徹底 コピー時の設定確認(両面印刷・用紙設定)	全員	裏紙がなくなるほど再利用化を進められました。今期は目標未達となってしまいましたが、昨年度より売上が上がった事で貨物の入荷が多くその他の廃棄物量も増えた為だと思います。再利用可能なものは対応し貨物増加に伴う廃棄物の増加がなるべく抑えられるよう活動をしていきます。	今後も引き続き活動を行います。
産業廃棄物の削減	通い箱の活用 梱包材の再活用（緩衝材など） トナーカートリッジのリサイクル	全員	通い箱の利用も紙や梱包材の再利用など定着しています。倉庫の掃除等で溜まっていた廃棄物や、レイアウト変更に伴い、排出量が増えました。都度片付け、分別を徹底し、排出量削減を進めます。	削減ができるよう活動を引き続き行います。
節水	日常的な節水の励行 節水の呼びかけ 除湿機の水を植木や水撒きに再利用	全員	日常的な節水ができましたが、真夏の間だけ水の使用量がテクニカルセンターにて増えてしまいました。植木や植物へ除湿機の水を再利用をして水撒きを行っていたのですが、それだけでは不足だったようです。夏以外はしっかり節水対応ができ目標も達成する事ができました。	引き続き日常的な節水を心がけます。水撒き用のメーター設置を行うか検討します。
製品への環境配慮	老朽化装置のサービス対応・部品供給による装置延命化 LED製品等の環境配慮型製品の販売	営業	毎年フォローする老朽化装置対策品は増えていて順調に売上を伸ばすことができました。引き続き、サポートできる商品開拓とその体制強化を進める共にLED製品等環境配慮型製品の販売も売上促進をします。	引き続き活動を取組み、達成に向けて活動をします。
化学物質の使用管理	適切に化学物質を管理し保管する	納	適切に管理を行えました。	今期も引き続き管理をし保管していきます。
環境整備活動の実施	事務所周辺の環境活動を実施 会社内の緑化活動	芋瀬 納	事務所周りの環境活動も行えました。 ポシブル農園、定着し成功しました。 緑化活動に努めました。	引き続き活動を進めます。

◆ 鹿児島営業所

目標	取組活動	担当	取組結果	今後の取組
電力の二酸化炭素排出量の削減	商品管理以外の使用していない空調の停止 事務所空調温度の適正化 空調機のフィルタを定期的に清掃 照明の不要時消灯	全員	基準となる2021年よりもポンプ修理件数は増えましたが、電力使用量は2021年より若干ですが、減っておりました。 今年は猛暑でしたが、設定温度は高めに設定し扇風機で空調温度を調整しました。	引き続き、取組活動を継続していきます。
自動車燃料・LPGの二酸化炭素削減	エコドライブの徹底 可能な限り乗り合わせて行動 不要な荷物をおろす	営業	今年度は社員が1名増えたのでガソリンの使用量も増えました。遠方へのドライポンプ配達も定期的にありましたが、なるべく台数を纏めるように心がけ昨年度より軽油量が減りました。 一年を通し、エコドライブを意識し活動する事が出来ました。	引き続き、取組活動を継続します。
一般廃棄物の削減	裏紙の利用 廃棄物分別の徹底 コピー時の設定確認 (両面印刷・用紙設定)	全員	お客様へ納品する際、営業所内で注文書や伝票を印刷し納品する事に変更になりカウンター量が増えましたが、裏紙の再利用や印刷ミスを防ぐよう徹底しました。	引き続き、取組活動を継続していきます。
産業廃棄物の削減	通い箱の活用 梱包材の再活用（緩衝材など） トナーカートリッジのリサイクル	全員	廃液量は収集運搬料を意識し、回収回数を抑えるよう取り組む意識はしましたが、ポンプ修理台数が増えた為、廃液量も増えました。廃液使用量を下げるように意識して取組をしました。	引き続き、取組活動を継続していきます。
節水	日常的な節水の励行 節水の呼びかけ 除湿機の水を植木や水撒きに再利用	全員	ポンプの受注件数が増えており、洗浄で使用しますので、削減目標は達成できませんでしたが、来年も引き続き皆さんで節水を意識し、活動します。	引き続き、取組活動を継続していきます。
製品への環境配慮	老朽化装置のサービス対応・部品供給による装置延命化 LED製品等の環境配慮型製品の販売	営業	LED照明装置は定期的に受注を頂いております。 廃棄せず再生できる商談やLED化の商談を増やせるように意識はしましたが未達となりました。	LED化は今後も引き続き営業活動をし、修理再生案件も引き続き増やせるように取組活動を継続していきます。
化学物質の使用管理	適切に化学物質を管理し保管する	青木	適切に管理保管出来ました。	引き続き、取組活動を継続していきます。
環境整備活動の実施	事務所周辺の環境活動を実施	全員	今年度の環境整備実施できました。	状況に合わせて活動をします。

※ 次年度の環境目標は前項「4. 環境目標（全体）」2024年度 と致します。

7.他の各営業所の環境負荷および取組の状況

営 業 所	面積 (㎡)	人員数	環境負荷				
			電気	水道	LPG	ガソリン	廃棄物
熊本営業所	178.7	4	○	○	-	○	○
長崎営業所	110.3	6	○	○	○	○	○
広島営業所	102.2	16	○	○	-	○	○
横浜営業所	81	3	○	○	-	○	○
福島営業所	164.1	4	○	○	○	○	○
大分営業所	72.7	2	○	○	-	○	○
東京営業所	59	5	○	○	-	○	○

※1　横浜・大分の水道使用料はビルによる一括数値管理のため把握ができませんが、
環境活動は行っています。

■取組の状況と評価

熊　本　営　業　所

電力は温度管理を徹底しました。電灯はLED化されましたが、こまめに電灯を消す活動も行いました。2021年12月に移転した新事務所は、1台のエアコンで24時間全館空調を行うシステムです。移転前の事務所より広くなった事もあり比較が難しいですが、電力使用量は増えました。来年度は少しでも減らせるよう活動をします。
ガソリン使用は乗り合わせで行く、必要以上に荷物を載せないようにする、などエコドライブを実施したことで良い取組結果を得ることができました。一般廃棄物・産業廃棄物は分別を徹底したことで制御することができました。
水道使用量は、節水型トイレ・水栓レバーになったことで人数が増えても使用量を少し減らすことができ良い取組結果を得ることができました。
来年度も引き続き営業所全員でエコアクションの活動に取り組んでまいりたいと思います。

長　崎　営　業　所

継続して省エネ、ごみの減量、環境配慮製品の販売促進に努めました。
全体の排出量については、新型コロナ対策の換気や手洗いの励行の影響もあり難しく、特に夏場の空調の消費電力が体調不良の恐れもあり、なかなか減らせませんでした。その分寒くなってからの電熱器の使用を極力控える努力をし、効果が見えてきていますので継続していきます。
節水については、9月～在籍が6名になり、1名増えたため水道使用料が多くなってしまったり、洗車はガソリンスタンドではなく営業所で行うなどイレギュラーなこともあり夏場の水道使用量が多くなってしまいました。節水の呼びかけにさらに力を入れたいです。

大　分　営　業　所

客先への訪問に際してほとんど乗り合わせで活動しており、ガソリンの使用量を前年比約30%削減できました。
また、照明は必要な場所のみ点灯することも心掛け、約30%節約できました。段ボールについてはメーカーより入荷したものを再利用していますが、それでもなお新品の段ボールを使用せざるを得ないものが多く 段ボールを多く消費しました。
最近では修理のリピート案件が増えているのでそれらに関して営業所で通い箱を製作するなど検討していきます。
2023年度はフィルター再生の受注促進し、環境配慮関連の売上を伸ばしていきます。

広　島　営　業　所

人員の増員は引き続き継続してありますが、基本的にお客様の工場内の仕事がメインのメンバーがほとんどで営業所で通常過ごす人員は約4名です。仕事量が増え手狭になったため、2021年12月に広い場所へ移転をしました。
設備環境が変わった事が大きく、当然ながら環境負荷は増えます。
業務量が増えて行く中で、廃棄物が増えてしまいこの削減を進めて行くのは難しいことですが、
営業所全員で節電や一般廃棄物の削減など活動を進めていきます。

■取組の状況と評価

横　浜　営　業　所

一年を通じて紙への印刷は必要最低限に出来ました。
また、産業廃棄物は出さないように出来ました。
箱や緩衝材は再利用を徹底しました。
緊急事態宣言の終了と共に、換気扇の利用を減らし窓開けにて対応するようにしました。

東　京　営　業　所

事務所では所員全員で節電、節水、紙の再利用など省エネを意識し、エコ活動への取り組みを行いました。
また、社用車で遠方に出かける際は不要な荷物の積み下ろす等、エコドライブを心掛けました。
新型コロナまん延防止対策として、所員の出社人数を減らし一部の所員は在宅での勤務形態をとったことで、
営業所への移動の抑制などにより温室効果ガスの排出量削減に多少なりとも効果があったと思います。
来期も所員それぞれが省エネを意識しエコアクション活動を取り組んでいきます。

福　島　営　業　所

社有車での移動は各人員それぞれがエコドライブを意識して行動しております。電力使用については、出来るだけエアコンの温度を27℃で設定し、節電を心掛けております。ただし、事務所の建物が古く気密性が悪いため、冬期間（特に12月～2月）は暖房を普段より多く使用する傾向があります。また、節水についてはステッカーを目立つところに貼って必要最低限しか使用していません。なお　2023年の6月頃を目途に新しく購入した事務所に引っ越します。環境が少し変わりますが引き続きエコアクションへの取り組みを心掛けて参ります。

8．環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果 違反、訴訟等の有無

適用される関連法規等の遵守状況

法律名	内容	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物の委託処理	遵守
	廃棄物の処理（社内保管）	遵守
家電リサイクル法	特定家庭用機器の排出	遵守
小型家電リサイクル法	使用済小型電子機器の排出	遵守
騒音規制法	騒音施設の届け出	遵守
振動規制法	特定施設	対象外
フロン排出抑制法	機器の所有者（管理者）によるフロン漏えい点検	遵守
浄化槽法	浄化槽（合併処理浄化槽）	遵守
水質汚濁防止法	有害物質を含む液状のものを貯蔵する施設の届出	遵守
宮崎市公害防止条例	騒音施設の届け出	遵守

環境関連法規への違反、訴訟はありません。また、過去３年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

9. 代表者による全体評価と見直し

昨年末に熊本・広島で営業所の移転が2拠点あった。広い営業所、業務拡大により人員増のあった営業所等、各拠点で様々な環境変化のあった中スタートした2022年度。昨年3月に稼働した本社屋上の太陽光発電による電力の自家消費により電力のCO2削減に高い効果を得る事ができた。今後は自家消費率のアップを目指すと共に、CO2排出削減に寄与できると考える。
2022年度も環境目標に対し厳しい状況が続いたが、前年度の売上に対する環境負荷値で計算し2022年度と比較した中では、電力・一般廃棄物・老朽化対策品の項目で前年度よりは良い結果が得られており、事業活動の活発化、継続的な環境活動を行い、より良い環境実績を出せるよう全社で引き続き取組を行う。

10. 環境活動の状況

各営業所で工夫した活動を行えた。
行動制限が緩和されたので車の移動・出張が増えガソリン使用量も増えた。産業廃棄物排出量が昨年よりかなり多くなったが真空事業部の好調によるもので、販売実績を伸ばす事ができ、各拠点でもそれぞれ環境活動が行えました。
新設備の導入と併せて、できる事一つ一つを個人が考え、自分たちの環境活動目標を達成できるよう今後も活動を進めます。

■ 環境活動

▶鹿児島

POSSIBLE

太陽光発電設備
本社屋根

LED化
宮崎/熊本営業所

▶宮崎

環境整備活動

恒例　ポシブル農園　今年はたくさんの甘いすいか・トマトが収穫できました!!